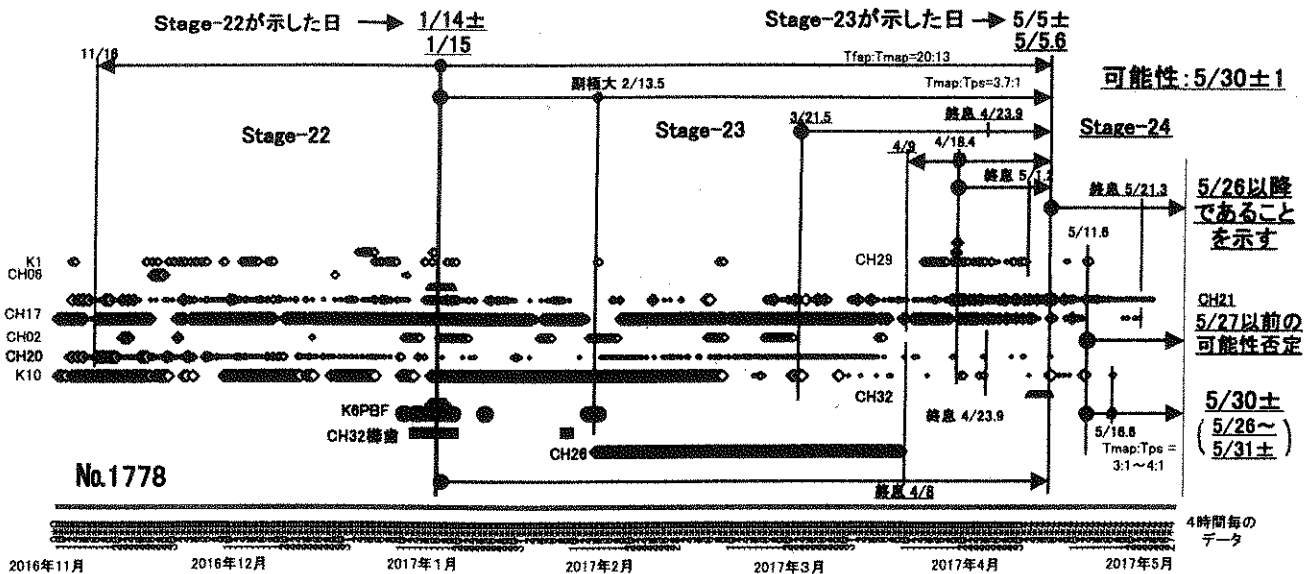
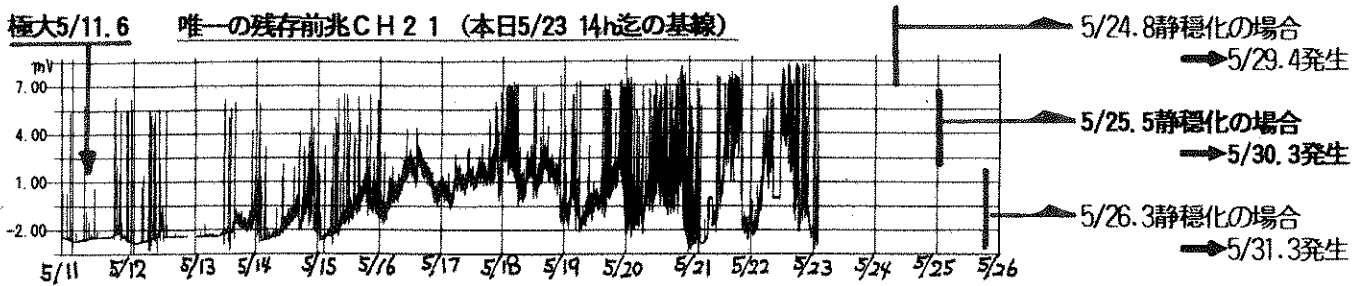


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 修正 5/27以前発生の可能性は否定
5/24~26 CH21終息が観測されれば → 5/30±1 対応地震発生の可能性有



前続報で、最終極大認識=5/11.6 に対し、最後に残った残存前兆CH21の特異状態前兆が5/22~23に終息した場合は5/26or 5/27発生の可能性を報告致しました。

しかし、本日5/23午後現在、上CH21基線のとおり、前兆は継続中です。このことから、5/27を含めそれ以前の日に対応地震発生の可能性は否定されます。

前回、K10の主極大5/11.6 副極大5/16.6からTmap:Tps=3:1~4:1(最も多い平均値=3.7:1)から推定される日を5/24±(5/20~5/25)と記しましたが、Tps=5日の3倍値~4倍値を加算する主極大を5/11.6ではなく、5/5.6に加算してしまいました。誠に申し訳ございません。あらためて5/11.6に加算致しますと最も多い可能性=5/30を示し、誤差として5/26~5/31となりましたので、修正させて頂きます。

断続的に短時間出現したCH17前兆も5.21.3以降再出現無し。これは5/26以降であることを示します。これらを鑑みますと、上CH21基線右側に記した通り、5/24~5/26期間中にCH21が終息すれば、5/30±1 時期に対応地震発生の可能性が示唆されます。

10日以上継続前兆がCH21のみと云う状態=8年間で初めて

- ◆推定領域：下図 点線領域=大枠 太線領域内=可能性高い
※ある程度火山に近い領域の可能性有
(※影響局誤認の場合は福島付近となるが下図領域が考え易い)
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (震源浅い陸域日本列島地殻地震)
- ◆推定時期：実際のの前兆終息を観測後計算予定
可能性：5月24~26日終息の場合=5月30日±1日
(※5月27日夜段階で前兆継続の場合は再考し修正)
- ◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

